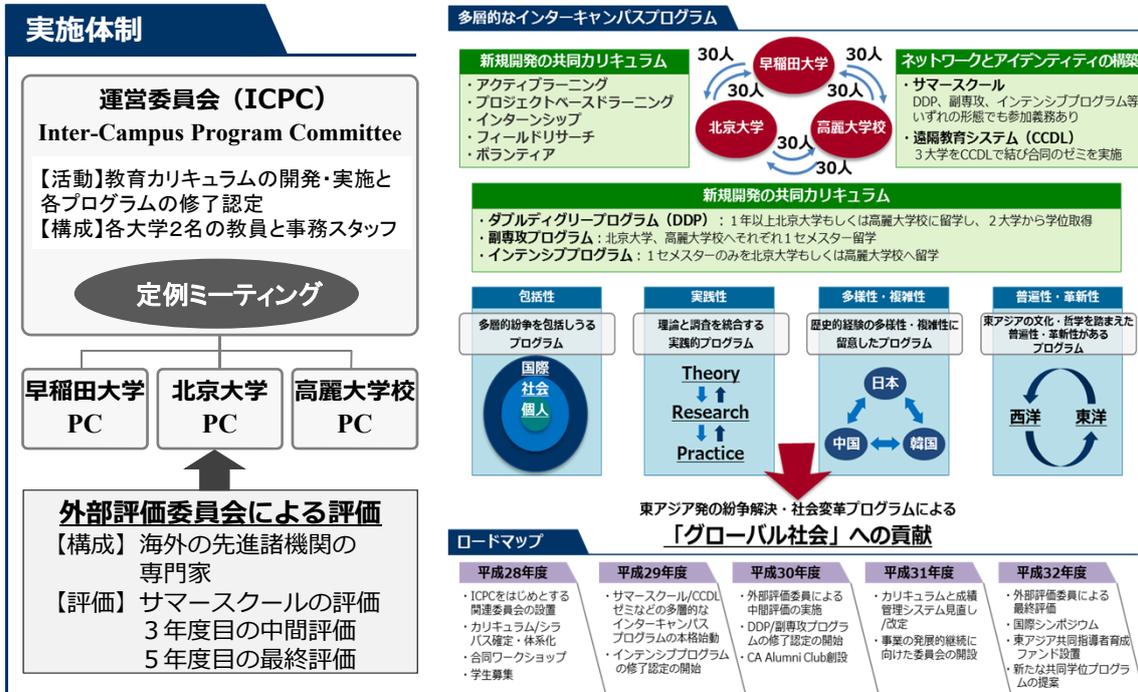


# 大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 早稲田大学 取組概要

**【事業の名称】**(選定年度28年度・(タイプA-② CAMPUS Asia))  
 「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム」

## 【事業の概要】

本事業は、軍事衝突だけでなく、経済格差や差別問題、環境破壊など、国際、社会、個人など、多層的な次元で生ずるさまざまな対立や葛藤を包括する「紛争」の解決のための新たなグローバルリーダー育成プログラムである。早稲田大学・北京大学・高麗大学の三大学は共同でアクティブラーニングやプロジェクトベースドラーニング、インターンシップやフィールドリサーチなど新しい教育手法を積極的に導入し、多層的なインターキャンパスプログラムを通じて実践的な人材を育成するとともに東アジアの次世代リーダーとしてのネットワークとアイデンティティの構築を支援する。



## 【交流プログラムの概要】

早稲田大学、北京大学、高麗大学校の三大学は、ダブルディグリープログラム、副専攻プログラム、インターンシッププログラムのそれぞれに対して同数の学生を交換し、また合同ワークショップやサマースクール(ウインタースクール)を通じ、共同して教育カリキュラムの開発と実施にあたる。

### <ダブルディグリープログラム>

協定大学のいずれかに1年間留学し、留学先大学の学位を取得する1年間の留学プログラム。

### <副専攻プログラム>

協定大学にそれぞれ1セメスターずつ留学する、合わせて1年間の留学プログラム。

### <インターンシッププログラム>

協定大学のいずれかに1セメスター留学する、6か月間の留学プログラム。

## 【本事業で養成する人材像】

**社会変革力:** 様々なレベルの紛争に積極的にコミットしその解決を通じて社会の変革に貢献したいという強い意欲を持つ人材。

**相互理解力:** 多様な意見や政治的立場、文化や歴史の差異について豊かな感受性と理解力をもつ人材。

**調査分析力:** 紛争が生じている現状とその理由について専門的知見とそれを調査し分析する方法論を有する人材。

**実践応用力:** キャンパスで学んだ知識を社会の変革に役立てていく実践的な応用力を有する人材。

## 【本事業の特徴】

紛争解決のための人材育成プログラムに関しては、これまで欧米の諸大学が熱心にその開発と実践に取り組んできたのに対し、日本を含む東アジアでは、いまだ十分に社会に根を張るに至っていない。本事業では、世界のあらゆる地域で発生するさまざまな紛争に対して、東アジアの歴史と文化に立脚した新しい紛争解決のためのグローバルリーダー育成プログラムを開発・実践し、人材育成を通じて紛争解決、社会変革への国際的貢献をなす。

## 【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C 5 K 5	C 15 K 15	C 20 K 20	C 30 K 30	C 30 K 30
中国(C)での受入	J 5 K 5	J 15 K 15	J 20 K 20	J 30 K 30	J 30 K 30
韓国(K)での受入	J 5 C 5	J 15 C 15	J 20 C 20	J 30 C 30	J 30 C 30

# 1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【早稲田大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-② CAMPUS Asia))

「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム」

## ■ 交流プログラムの実施状況

事業の開始が10月31日からとなったため、実質的な交換留学プログラムの開始は平成29年度以降となった。その一方で2回のICPCにおいて3大学共同での新カリキュラムの開発・設置および交換留学プログラムについてのすり合わせを行い、学内では学生に対してキャンパス・アジアの留学プログラムに関する説明会を行った。また事業のHP、Facebook、Twitterを立ち上げ、新たな留学プログラムの広報を行った。

各大学の参加学生間の交流について協議を進め、その成果として4月19日に高麗大学校のキャンパス・アジア参加学生を日本に招き、早稲田大学のキャンパス・アジア参加学生との交流を実現した。



〈2017.4.3 キャンパス・アジア 新入生向け説明会〉



〈2017.4.19 交流する日中韓の学生と大学関係者〉

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

- 日本人学生の派遣
- 外国人留学生の受入

平成28年度においては、派遣・受入ともに実績はなし。

	H28
日本(J)での受入	C 0 K 0
中国(C)での受入	J 0 K 0
韓国(K)での受入	J 0 C 0

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・各大学にPCを設置するとともに、三大学合同でICPC(各大学2名の教員とスタッフにより構成)を設置し、第1回を北京大学にて、第2回を遠隔会議システムを活用し実施した。平成29年度4月には早稲田大学にて第3回を実施している。
- ・先進諸機関より専門家を招聘・あるいは訪問し、外部評価委員会への就任依頼の可能性を模索した。
- ・カリキュラムとシラバスの確定を推し進めた。
- ・新しい教育手法の導入に向けた合同ワークショップを準備し、4月19日の開催に至った。

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業のホームページ(日本語・英語)を立ち上げ、Facebook、TwitterといったSNSと並行して日英併記で広く内外に情報を発信した。留学前の外国人学生や留学中の日本人学生もこうした情報媒体を通じて常に最新の情報にアクセスすることができ、またホームページを通じていつでも事業に関する質問をすることができる環境を整えた。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ・本事業のために英語力に優れた職員を1名雇用するとともに、学部事務局・国際部・留学センターが密接に協力・連携しつつ、内部チェック機能を有する相互補完的な運営体制を構築。
- ・外部からの事業チェック機能として、外部評価委員会の立ち上げを準備。
- ・HP、Facebook、Twitterを立ち上げ、本事業の交流状況や実施するカリキュラム情報、学生の研究成果、留学体験記等を広く公開。

## ■ グッドプラクティス等

- ・新科目の開講
- ・積極的な広報活動
- ・三大学による合同ワークショップを開催
- ・キックオフシンポジウムを開催
- ・連続講演会“Waseda meets Global Leaders”を開催



〈2017.4.19 三大学合同ワークショップ〉



〈2017.4.20 キックオフシンポジウム〉

## 2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【早稲田大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・タイプA-② CAMPUS Asia )

「多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム」



### ■ 交流プログラムの実施状況



〈2017.8.9 サマースクール グループワーク@本学〉

・4月よりキャンパス・アジア専任の教員を雇用し、紛争解決・社会変革に係る「キャンパス・アジア科目」を留学センターに開講、150名以上の学生が科目を履修。加えて、より深く学びたい学生向けに、全学部と協議し、各学部から2-3科目を「キャンパス・アジア関連科目」として設定した。

・中・長期留学については、平成29年度中にパイロットケースとして交流を行い、サマースクールとウィンタースクールで、北京大学・高麗大学から短期留学生を受け入れた。  
・新規ウェブサイトを持ち上げ、リーフレットの作成等により科目や留学プログラムを積極的に広報した。また、7月に翌春出発の、4月に秋出発のキャンパス・アジア留学説明会をそれぞれ実施し、北京大・高麗大でも同様の広報活動を実施した。

・セミナーや特別授業の際には、学内の他の留学プログラムと連動し、大学全体でセミナーの広報を実施した。

・12月に派遣留学生のオリエンテーション、平成30年5月に受入留学生の歓迎座談会を実施し、キャンパス・アジア学生同士の連携を深め、情報共有する機会を提供した。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

3大学間の合意で、正式な留学プログラムの開始は平成30年春からとなったが、パイロットケースとして、平成29年9月から北京大へ2名、高麗大へ2名、計4名の学生を長期派遣した。その際航空券の支給による学生支援を行い、当該学生たちは、受入大学でキャンパス・アジア科目の履修をしている。

#### ○ 外国人留学生の受入

派遣同様、パイロットケースとして、平成29年9月から北京大より1名の長期留学生を受け入れた。当該学生は、本学で積極的にキャンパス・アジア科目を履修し、キャンパス・アジア学生の良きモデルとなっている。また、サマースクール(東京・長崎)・ウィンタースクール(東京・岩手)の際、中国より計11名、韓国より計9名の短期留学生を受け入れた。その際、受入留学生全員にJASSO奨学金を支給することができた。また、平成30年度春からの受入学生には、学生支援として、学生寮費の一部負担を行う。

#### <タイプA-②>

	H29
日本(J)での受入	C 1 K 0
中国(C)での受入	J 2 K 0
韓国(K)での受入	J 2 C 0

※上記数字は3ヶ月以上の中長期留学のみを計上  
※ 短期留学(サマー・ウィンタースクール)の「日本(J)での受入」人数: C11, K9  
※学内全プログラムを総合すると、北京大へ36名・高麗大へ4名を長期派遣しており、北京大から26名・高麗大から14名を長期受入している。



〈2018.2.9 ウィンタースクール企業訪問@岩手・釜石〉

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・Program Committee(PC)を各大学で2回開催し、学内委員の意見を取り入れた。
- ・Inter-Campus Program Committee (ICPC、各大学2名以上の教員と職員より構成)を3大学合同で定期的に2か月毎、対面またはスカイプで開催し、大学間交流の枠組形成等につき協議した。
- ・先進諸機関より専門家を招聘し、外部からの意見やアドバイスをいただき、プログラムの質を保証した。
- ・先進諸機関より専門家を招聘し、本学・北京大・高麗大教職員対象に、新しい教育手法の導入に向けた合同ワークショップを4月、7月、2月に開催した。

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・Facebook・TwitterといったSNSのみならず、新規に事業のウェブサイト(日本語・英語)を立ち上げ、課題であった在国の北京大学学生・教職員とも情報共有できるように整備した。
- ・12月より毎月ニュースレターを発行し、キャンパス・アジア科目登録学生、留学生、3大学関係者にメールで配信している。
- ・留学前の外国人学生や留学中の日本人学生がこれらの情報媒体を通じて常に最新の情報にアクセスすることができ、またウェブサイトを通じていつでも事業に関する質問をすることができる環境を整えた。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

#### 情報の公開、成果の普及

- ・本事業のために英語力に優れた職員を1名雇用するとともに、学部事務局・国際部・留学センターが密接に協力・連携しつつ、内部チェック機能を有する相互補完的な全学運営体制を構築した。
- ・ウェブサイト・Facebook・Twitterを立ち上げ、本事業の交流状況や実施するカリキュラム情報、留学体験記等を広く公開した。

### ■ グッドプラクティス等

- ・紛争解決・社会変革に係る「キャンパス・アジア科目」の新規開講
- ・サマー・ウィンタースクールの開催
- ・3大学合同のキックオフシンポジウム、3大学教職員対象FDワークショップを3回、連続講演会“Waseda Meets Global Leaders”を6回開催
- ・新規ウェブサイト・Facebook・Twitter、リーフレット・ニュースレターを通じた積極的な広報活動



〈2018.5.15 第7回 Waseda Meets Global Leaders〉



〈2017.9.20 第5回 ICPCミーティング@高麗大学校〉